

令和4年度 確かな学力向上推進プラン

令和4年7月1日現在
江戸川区立松江第三中学校

学力向上に向けた目標値																		
成果指標：都学力調査の正答率					※令和3年度より実施形態が変更になったため、新たな成果指標を検討中													
教科	平成30年度 結果		平成31年度 目標値		平成31年度 結果		令和2年度 目標値		令和2年度 結果(調査中止)		令和3年度 目標値		令和3年度 結果		令和4年度 目標値		令和4年度 結果	
国語	問	69.0%	問	72.0%	問	68.6%	問	70.0%	問	%	問	70.0%	問	%	問	%	問	%
社会	問	59.4%	問	62.0%	問	50.2%	問	60.0%	問	%	問	60.0%	問	%	問	%	問	%
数学	問	50.8%	問	53.0%	問	47.8%	問	55.0%	問	%	問	55.0%	問	%	問	%	問	%
理科	問	54.3%	問	55.0%	問	48.1%	問	55.0%	問	%	問	55.0%	問	%	問	%	問	%
英語	問	52.6%	問	55.0%	問	44.5%	問	55.0%	問	%	問	55.0%	問	%	問	%	問	%

学力向上に向けた取組				
論点	第1学年	第2学年	第3学年	成果指標及び数値目標
論点1 基礎的・基本的事項の定着	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善・・・協同的な学びのある授業（共有の課題とジャンプの課題）「深い学び」の研究、コの字型机配置等 カリキュラム・マネジメント（教科等横断的学習の推進）・・・年間カリキュラムの改善 「目標」と「指導と評価」の一体化 補充学習の工夫（放課後補習教室の推進） 学習タブレット（eライブラリ）の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善・・・協同的な学びのある授業（共有の課題とジャンプの課題）「深い学び」の研究、コの字型机配置等 カリキュラム・マネジメント（教科等横断的学習の推進）・・・年間カリキュラムの改善 「目標」と「指導と評価」の一体化 補充学習の工夫（放課後補習教室の推進） 学習タブレット（eライブラリ）の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善・・・協同的な学びのある授業（共有の課題とジャンプの課題）「深い学び」の研究、コの字型机配置等 カリキュラム・マネジメント（教科等横断的学習の推進）・・・年間カリキュラムの改善 「目標」と「指導と評価」の一体化 補充学習の工夫（放課後補習教室の推進） 学習タブレット（eライブラリ）の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価（生徒アンケート）において、「学びあいによる学習意欲・発展問題への挑戦意欲の向上」の項目平均、94%以上。（令和3年度 92.1%） 全国学力・学習状況調査において、都平均に達する。（令和3年度、国語は-3.0ポイント 数学は-10.0ポイント）
論点2 学習規律の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めの全体オリエンテーション 授業チェック（毎学期） 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めの全体オリエンテーション 授業チェック（毎学期） 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めの全体オリエンテーション 授業チェック（毎学期） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価（保護者アンケート）において、「基礎学力が身に付いている」の項目、75%以上。（令和3年度 59.7%）
論点3 生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣作り・・・生活改善カード(毎学期) SNS対策・・・松三SNSルール 健康教室、食育などの健康づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣作り・・・生活改善カード(毎学期) SNS対策・・・松三SNSルール 健康教室、食育などの健康づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣作り・・・生活改善カード(毎学期) SNS対策・・・松三SNSルール 健康教室、食育などの健康づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価（保護者アンケート）において、「基本的生活が身に付いている」の項目、90%以上。（令和3年度 87.4%）
論点4 家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の定着・・・授業・補充学習とのつながりある指導体制 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の定着・・・授業・補充学習とのつながりある指導体制 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の定着・・・授業・補充学習とのつながりある指導体制 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価（生徒アンケート）において、「家庭学習の時間（塾を含めない）2時間以上」の項目15%以上。（令和3年度 14.2%）

<p>論点5 言語に関する指導 の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 探究活動（総合的な学習の時間、読書科）の充実 • 表現活動の工夫、事前事後学習の工夫、成果物（レポート）の作成 • 授業内の話しあい、発表活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> • 探究活動（総合的な学習の時間、読書科）の充実 • 表現活動の工夫、事前事後学習の工夫、成果物（レポート）の作成 • 授業内の話しあい、発表活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> • 探究活動（総合的な学習の時間、読書科）の充実 • 表現活動の工夫、事前事後学習の工夫、成果物（卒業研究）の作成 • 授業内の話しあい、発表活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校評価（生徒アンケート）において、「現代社会の課題（SDGs など）実生活と繋がりをも事前事後学習に積極的に取り組む」の項目、95%以上。（令和3年度 93.5%）
<p>論点6 教員の学習指導力 向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 全教員の授業公開 • 授業研究全体3回 学年6回 • 職層や経験に応じた自己啓発 • 教科・領域の研修 • OJTの促進 • OJT指導者の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> • 全教員の授業公開 • 授業研究全体3回 学年6回 • 職層や経験に応じた自己啓発 • 教科・領域の研修 • OJTの促進 • OJT指導者の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> • 全教員の授業公開 • 授業研究全体3回 学年6回 • 職層や経験に応じた自己啓発 • 教科・領域の研修 • OJTの促進 • OJT指導者の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校評価（保護者アンケート）において「教師との信頼関係ができています」の項目、85%以上。（令和3年度 82.9%） • 全国学力調査・都学力調査の正答率向上。

教科	各教科の授業改善に向けた指導の重点		
	第1学年	第2学年	第3学年
国語	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な漢字テストによる新出漢字及び既習漢字の習得。 スパイラル学習(文法・文章構成等)による知識の定着。 単元ごとの「感想や考えたこと」の文章化。 少人数班での意見交流活動の基本の習得。 朗読や群読、物語を小説に書き換える創作など、様々な表現活動を体験させ、言葉で表現することの楽しさを学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な漢字テストによる新出漢字及び既習漢字の習得。 スパイラル学習による知識の定着。 単元ごとの「感想や考えたこと」の文章化。 少人数班での意見交流活動を通じた、考える幅を広げる学習。 朗読や群読、などの表現活動を計画的に取り組みせ、様々な表現の工夫を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な漢字テストによる新出漢字及び既習漢字の習得。 スパイラル学習による知識の確実な定着。 単元ごとの「感想や考えたこと」の文章化。 意見文・小論文の基本的な書き方をもとに実際の文章表現に取り組む学習。 少人数班での意見交流活動を通じた、考える幅を広げる学習。 対話と会話、意見交流など様々な表現におけるそれぞれの特徴を理解し、実際に組みませる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳を活用した技能の育成 少人数グループ学習の充実 基礎的、基本的な知識の活用力の育成 追究学習、表現学習の推進 資料を読み取る力の育成 ICT タブレットを活用した授業展開 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取り、自分の考えをまとめる力の育成 少人数グループ学習の充実 学び合いによる多面的・多角的な見方・考え方の育成 因果関係を重視した歴史学習 映像を用いた授業による地理歴史への関心の向上 ICT タブレットを活用した授業展開 	<ul style="list-style-type: none"> 地理歴史を土台とした公民学習の推進 公民の知識を活用し、新聞やニュースなど身の周りの社会情勢に関連付けて考える力の育成 少人数グループ学習の充実 ICT タブレットを活用した授業展開
数学	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数授業を行い、基礎基本の定着を図りつつ、ジャンプの課題なども活用しながら、全体的な底上げをしていく。また、自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気付くことが難しい気付きを得たりしながら、考えを広げたり深めたりできるようにする。 授業の最初に小テストを実施し、計算力の定着を図る。 タブレットを活用し、グラフ、図形などを動的に捉える。 宿題や定期考査をきっかけとして、学習する習慣を身につけさせる。 理解が不十分な生徒に対しては、定期考査前には質問教室や適宜補習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数授業を行い、基礎基本の定着を図りつつ、ジャンプの課題なども活用しながら、全体的な底上げをしていく。また、自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気付くことが難しい気付きを得たりしながら、考えを広げたり深めたりできるようにする。 宿題や定期考査をきっかけとして、学習する習慣を身につけさせる。 理解が不十分な生徒に対しては、定期考査前には質問教室や適宜補習を行う。 多くの演習問題を取り入れ、学習内容の定着を図る。 希望者には定期考査前の補修教室を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数授業を行い、基礎基本の定着を図りつつ、共有の課題・ジャンプの課題なども活用しながら、全体的な底上げをしていく。また、自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気付くことが難しい気付きを得たりしながら、考えを広げたり深めたりできるような機会を設ける。 宿題や定期考査をきっかけとして、学習する習慣を身につけさせる。 理解が不十分な生徒に対しては、適宜補習を行う。 多くの演習問題を取り入れ、学習内容の定着を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察する機会を多く設定し、主体的に学習する意欲や態度を育成する。 生徒同士が対話や発表する時間、個で考える時間、教員の話を中心して聴かせる時間を1授業内で確保し、それらがバランスよく配置された授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験などを多く設定し、科学的事象を体験的に学ばせることで、主体的に学習する意欲や態度を育成する。また、実験考察の記述の充実を図るために、話し合いや発表の時間を設ける。 これまで身に付けた見方・考え方を活用しながら、見通しをもって学習に取り組めるように授業デザインを工夫する。 問題演習を随時行うことで、基礎基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察する機会を多く設定し、主体的に学習する意欲や態度を育成する。また、実験考察の記述の充実を図るために、話し合いや発表の時間を設ける。 生徒同士が対話や発表する時間、個で考える時間、教員の話を中心して聴かせる時間を1授業内で確保し、それらがバランスよく配置された授業を行う。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> 「表現」及び「鑑賞」の教材は、生徒の関心・意欲を引き出すものや、日本・諸外国の音楽を取り扱い、さまざまな音楽に親しむことができるよう工夫する。 音楽の表現を工夫するための基礎的な技術を身につけさせ、思いや意図をもって表現するために、個人・グループ活動を通して周りと考えを共有し、よりよい表現を話し合い考えながら創意工夫をすることができる能力を育てる。 ICT 機器を使用し、より音楽に親しみをもち表現・鑑賞する力を伸ばすことができるよう活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「表現」：思いや意図をもって音楽活動を楽しみながら行うことや、音楽を形作る諸要素、構造、曲想などを感じ取りながらよりよい表現のために創意工夫する能力を高める。 「鑑賞」：主に諸外国の音楽を取り扱い、感じ取ったことやその音楽の魅力、美しさなど自分の思いや考えを表現する力を伸ばすような発問や授業改善を行う。 ICT 機器を使用し、音楽を創意工夫して表現するために仲間と考えを共有することができるツールとして活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「表現」：生徒が主体的に音楽と関わり、思いや意図を形として表現することができるための創意工夫をする能力や演奏技術をさらに高め、仲間同士でよりよい表現について考え実践できるような話し合い活動を積極的に取り入れる。 「鑑賞」：日本の総合芸術を取り扱い、感じ取ったことと音楽と他の芸術の働きと関わりについて考えさせ、そのよさや美しさを人に伝えることができるような批評文をまとめる力を養う。 ICT 機器を使用し、自分自身や集団としての音楽の授業における成長を記録するポートフォリオのような活用の仕方をする中で、9年間の音楽教育を振り返ることができるようにする。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な表現技法の習得 色彩や文字（レタリング）の理解、彫刻刀の安全な使用方法、絵の具や筆の使用方法、静物デッサン（形、明暗の表現）、鉛筆の使い方 『鑑賞』 原始の美術の起源を理解し、多様な文化芸術を学ぶ、東京の建築→東京の近代建築への関心を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 表現技法の発展 彫刻刀による効果的な版表現、手のデッサン：質感、立体感、構図や透視図の理解 『鑑賞』 ルネサンス期の芸術→西洋美術の流れや特徴の理解漫画→日本の誇るアニメーションの起源を理解する シュルレアリスム→多様な表現への関心を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 表現技法の応用 自画像デッサン：1、2年生で身につけた基礎を元に自分自身を深く見つめ表現する 『鑑賞』 仏教彫刻→日本美術への深い理解から自国の文化への関心を高める
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の授業のめあて・流れを明確にし、見通しを持って学習に取り組む環境をつくる。学習カードの内容を工夫し、学習の振り返りなどに効率的に活用できるようにする。準備運動・補助運動を工夫し充実させ、ゲーム等で運動量を確保し、体力向上を図る。仲間と協力しながら課題を発見・解決できるように、ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の授業のめあて・流れを明確にし、見通しを持って学習に取り組む環境をつくる。学習カードの内容を工夫し、学習の振り返りなどに効率的に活用できるようにする。仲間と協力しながら課題を発見・解決できるように、ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れる。生徒の意欲の向上や技能の習得に向けて、タブレットを積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の授業のめあて・流れを明確にし、見通しを持って学習に取り組む環境をつくる。学習カードの内容を工夫し、学習の振り返りなどに効率的に活用できるようにする。1、2年生で習得したことを活用できる場面を毎時間設定し、生徒の実力を高める。仲間と協力しながら課題を発見・解決できるように、ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れ、課題に対する練習を自分たちで考えたりする。
技術 家庭	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容が身近な社会でどのように生かされているのか、学習内容と社会との結びつきを気付かせる。 学習内容や技能を身につけることへの意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識や技能を身につけ、身近な生活や社会の問題を解決するための方法を理解し、実践するための力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容をもとに、生活や社会における問題をどのように解決しているか意見を交換し、行動に結びつける力を高める。
外国語 (英語)	<ul style="list-style-type: none"> 小学校外国語との接続を図り、ペア活動等を通して、コミュニケーションにおいて活用できる技能を伸ばす。 4人グループでの学び合いにより、主体的に外国語を用いる言語活動を行う。 自分の考えや気持ち、日常的な話題について表現したり伝え合ったりする活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間ペア活動を取り入れ、新出事項の定着を図る。 教科書の学習や発表活動の際に4人グループでの学び合いを取り入れて学習効果を高める。 自分のことについて「話す」「書く」活動を多く取り入れて思考力・表現力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ペア活動を取り入れ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けさせる。 Retell やスピーチ活動を通して、聞いたことや読んだことを活用して、表現したり伝え合ったりする力を育成する。 単元テスト等を行い、語彙や文法の定着を図る。 ICT を活用して、個別学習の充実と音声指導の改善を図る。